

サザンクロスルータシステム「AR260S V2」

ファームウェアリリースノート

Version 3.3.5

Ver.3.3.2

以下のとおり機能追加、機能改善が行われました。

1. ファームウェアバージョン 3.3.5

2. 本バージョンで追加された機能

(1) IPsecネゴシエーションの機能拡張

IPsecのネゴシエーションにおいて、Mainモードの第4メッセージに含まれる Vendor ID を認識できるようになりました。

3. 本バージョンで仕様変更された機能

(1) tcpOutRsts MIB (.1.3.6.1.2.1.6.15.0)を正しく取得できていませんでしたが、これを修正しました。

(2) DHCPサーバーがDHCPクライアントに対してIPアドレスを配布できなくなる場合がありますでしたが、これを修正しました。

(3) ISAKMPにおいて、DPD パケットに含まれるシーケンス番号のチェック処理に不備があったため、意図せずVPNを切断してしまう可能性がありましたが、これを修正しました。

(4) 複数の IPsecピアをFQDN で指定している環境において、1 つの ISAKMP/IPsec SAが削除されると、他の ISAKMP/IPsec SA も削除されることがありましたが、これを修正しました。

(5) 多数の拠点と IPsec接続を行うセンター機器として使用するとき、GUIの「VPN」-「統計情報」の「SA」タブで「すべて削除」を繰り返しクリックすると、まれにリポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。

I

4. 本バージョンでの留意事項

(1) PPPoE インターフェース複数使用時のIPsec 経路変更

PPPoE インターフェースを複数設定し、仮想トンネルインターフェースを使用するIPsec 環境において IPsec 対向機器に対する経路(ルーティングテーブル)を変更する場合は、一度「切断」ボタンを押して PPPoE インターフェースを切断してから行ってください。

(2) PPPoE 使用時の固定アドレス設定

PPPoEセッションが接続された状態で「WAN設定」で固定アドレスを設定する「IPアドレス(オプション)」の値を設定すると、「IPアドレス (オプション)」に入力したアドレスとは異なるアドレスが設定されます。「IPアドレス (オプション)」を変更する場合には、PPPoEが切断された状態で変更する必要があります。

(3) MSS クランプ値の手動設定時の MSS 値

WAN側インターフェースの設定においてMSSクランプ値を手動設定にした場合、MTU 値が1454Byte以外のときに MSS値が正しく設定されないことがあります。そのため、自動設定を使用するか、正しい MSS値になるようにMSSクランプ値を調整してください。

(4) DNSリレー関連のログメッセージ

DNSリレーの問い合わせ先を自身の WAN側インターフェースの IPアドレスに設定している場合に、LAN配下のコンピューターから本製品の LAN側インターフェースの IPアドレス宛てに DNSクエリーパケットを受信した際、本製品に次のようなログメッセージが記録されます。

```
Aug 03 14:26:31 PMON [007]: [named] terminated unexpectedly. Restarting
```

```
Aug 03 14:26:31 PMON [008]: [named] restarted
```

```
Aug 03 14:28:07 PMON [007]: [named] terminated unexpectedly. Restarting
```

```
Aug 03 14:28:07 PMON [003]: Abandoned [named]
```

これを回避するには、DNSリレーの問い合わせ先を、本製品のWAN側インターフェースのIPアドレス以外に設定してください。

(5) DNSリレー・DNS 問い合わせドメインのドメイン名判定

DNSリレー使用時、WAN設定で DNS問い合わせドメイン(オプション)を指定すると、指定した PPPoEインターフェースがオンデマンド接続の場合、設定したドメイン名よりも長いドメイン名の問い合わせを受けると同一のドメイン名として判定します。これによりオンデマンドの PPPoEの接続を通じて通信が発生するため、できる限り長いドメイン名での指定が必要になります。

例:

```
DNS問い合わせドメインの指定: example.co.jp
```

```
同一と判定するドメイン: test-example.co.jp
```

(6) ポートフォワーディング設定時の対象プロトコルの表示

「NAT設定」で「NATタイプ」を「ポートフォワーディング」に設定し、「対象プロトコル」を「ESP」とした場合、いったん設定は反映されるものの、設定変更時に設定画面を開くと、「対象プロトコル」が「ESP」と表示されません。これは表示だけの問題で動作には影響ありません。

(7) デフォルトルートの出カインターフェース

トンネルインターフェースを利用した IPsec構成において、デフォルトルートの出力インターフェースをトンネルインターフェースにしている場合、WAN設定の内容を変更すると、デフォルトルートの出力インターフェースが、PPPoE インターフェースに変更されてしまいます。「ルーティング」設定にてデフォルトルートの出力インターフェースを再設定してください。

(8) IPsec経由でのログ記録

IPsec 経由でsyslog や SNMP トラップなどを送信する設定を行っている場合に、本製品の起動後に IP packet discarded のログが多数記録されます。本製品が保持できるログメッセージ数には上限があるため、この場合、起動時のログメッセージが削除されやすくなります。

5. 取扱説明書・リファレンスマニュアルの補足・誤記訂正

(1) Internet Explorer 9に関する補足

○ 14ページ「設定」の手順3に関する注釈 *1を下記のように変更します。

変更前:*1 本製品の設定は、Windows 版の Internet Explorer Ver.8、Ver.7 またはVer.6 をご使用ください。

変更後:*1 本製品の設定は、Windows 版の Internet Explorer 9、8、7 または 6 をご使用ください。

○ 32ページ「8 トラブルシューティング」の「設定画面がうまく表示されません」の最初の説明文を下記のように変更します。

変更前:Web ブラウザーとして Internet Explorer Ver.8、Ver.7 またはVer.6 を使用してください。

変更後:Web ブラウザーとしてInternet Explorer 9、8、7 または 6 を使用してください。

○ 34ページ「A.2 JavaScriptの有効化」の最初の説明文を下記のように変更します。

変更前:Internet Explorerに以下の設定を施すと、本製品にアクセスするときのみJavaScriptを有効にすることができます(他のセキュリティー設定に影響を与えません)。Internet Explorer Ver.7 の例を示しますが、Ver.8、Ver.6 でも同様です。

変更後:Internet Explorerに以下の設定を施すと、本製品にアクセスするときのみJavaScriptを有効にすることができます(他のセキュリティー設定に影響を与えません)。Internet Explorer 7 の例を示しますが、9、8、6 でも同様です。

(2) PPPoE 接続時のDNS オプションの自動取得

「WAN 設定」の接続モード「PPPoE」において、DNSオプションを固定設定にした場合、自動取得に設定し直してもDNS情報が削除されません。これを回避するには、かんたん接続により PPPoE の設定を再度行うか、設定を初期化した後に再設定を行う必要があります。

(3) PPPoE ユーザー名 / パスワード: 使用可能文字種

ファームウェアバージョン 3.3.2 から PPPoE 接続におけるユーザー名およびパスワードに使用できる文字種が変更され、前バージョンまで使用できなかった下記の記号が使えるようになりました。

\$ ' * / ; < > ` |

(4) NAT 経由でのリモートデスクトップ接続

リモートデスクトップ接続を行っている際に、リモートデスクトップの操作を長時間行っていない場合、通信が切断される場合があります。これを回避するには、リモートデスクトップ接続を行う端末同士で、Window Scale Option を使用しないようにする必要があります。

(5) NAT プール設定

上記参照ページの記述に誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。

誤: 「NAT プール」ページでの設定は、NAT の「ダイナミック NAT」に関連づけることができます。

正: 「NAT プール」ページでの設定は、NAT の「ENAT」に関連づけることができます。
